

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あうりんこ吉野		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 20日		～ 令和 8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 20日		～ 令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和 7年 12月 20日		～ 令和 8年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者、訪問先からの支援に対する満足度が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の保護者ニーズ調査を踏まえて、訪問先との日程調整を行うため、利用児の課題に沿った適切な時間帯、活動時間での訪問を行うことができています。 ・児童発達支援、放課後等デイサービスも実施する多機能型事業所であるため、個別支援、小集団支援の様子、課題点も踏まえた評価、情報共有ができ、より適切な支援方法の検討へ繋げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援、放課後等デイサービスでのアセスメントを踏まえて、集団場面での困り感をより具体的に抽出し、訪問先へ共有、支援方法の検討へ繋げる。 ・訪問先や保護者も理解しやすいアセスメント方法を検討し、利用児の成長、課題への共通理解を持ちやすくする。
2	保護者、訪問先に対して適切な助言ができているとの回答が多かった。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に小児リハビリ経験のある言語聴覚士、作業療法士が訪問に伺っており、専門的な視点から助言を行うことができています。 ・訪問先や保護者からの質問に対して、訪問先の環境も考慮した上で、具体的な支援方法を提案できるよう心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問先の環境設定や、指導方針などより細かく共有することで、より訪問先に沿った実現可能な支援方法の提案を行う。 ・園や学校の支援に関する外部研修の受講を検討する。 ・地域の交流会や支援会議の機会を活用し、園や学校視点での課題点、困り感を調査する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問回数が少なくなってしまう利用児がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・現状訪問支援全てを言語聴覚士1名、作業療法士1名の2名で対応しているため、訪問先との予定の調整が困難になるケースが多い。 ・多機能型事業所であるため、通所支援との兼ね合いから訪問支援に回える時間帯、日が少なくなりやすい。 ・利用児の契約数、訪問先の数が多く、それに伴う日程調整やアセスメント、会議などの業務量も多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士、作業療法士以外の職員への研修やOJTを実施し、訪問支援を行える職員の育成に努める。 ・訪問支援の必要性、頻度、時間帯などをより具体的に保護者、関係機関と検討し、より計画的な利用や契約の見直しへと繋げる。